



新キャプテンのあいさつ

このたび新キャプテンを務めることになりました、松浦朱里です。私は学部1年次から本学に在籍しており、長岡での生活も5年目となりました。研究室に配属されてからは、実務訓練や現地調査、発電所見学などを通して、多くの貴重な経験を積むことができました。こうした恵まれた環境や研究室の良い伝統を受け継ぎながら、より魅力ある研究室づくりに貢献してまいります。また、日々の研究だけでなく、研究室生活そのものも楽しく、和やかで充実したものとなるよう努めていきたいと考えています。現在、研究室にはB4が5名、M1が4名、M2が8名の計17名が在籍しており、さまざまな国や地域をルーツとする学生がともに学んでいます。互いの価値観や文化を尊重し合える環境だからこそ、学年や国籍を問わず、誰もが気軽に相談でき、安心して研究に取り組める温かい雰囲気大切にしていきたいです。最後になりますが、日頃より本研究室をご指導・ご支援くださっている先生方、先輩方、卒業生の皆様をはじめ、関わってくださるすべての皆様に心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(M1 松浦)



メンバー紹介と研究テーマ・実務訓練先

M2 (8人)

袁 昊：二つの能登半島地震における道路盛土の被害特性に関する研究

何 多：曾野木小学校周辺における液状化分布差の発生要因に向けた検討

坂井 響：地盤増幅特性の広域評価に向けた機械学習を用いたS波速度の推定

中村 勇斗：2024年能登半島地震における内灘町宮坂地区の地震応答解析

野田 悠斗：土粒子構造の可視化による乱れの評価指標の確立

松田 晃知：震源パラメーターのばらつきが地震動予測に及ぼす影響

松橋 典子：2024年能登半島地震における新潟市内の地震動特性の分析

ファイカ：Spatial analysis of earthquake-induced surface changes using InSAR based coherence in Niigata city during 2024 Noto Peninsula Earthquake

M1 (4人)

松浦 朱里：2024年能登半島地震における内灘町で生じた液状化・流動化による地盤変状の分析

小林 純成：鉾津堆積場の地盤特性の評価とリスク分析

マルコ：能登半島地震における道路盛土の被害メカニズムの評価

平林 千明：内灘砂丘における海岸砂丘の液状化・流動化メカニズムの解明

B4 (5人)

<実務訓練先>

古瀬 文太

日本工営株式会社

谷江 優葵

株式会社復建エンジニアリング

山室 遥暉

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

モンセ

株式会社オリエンタルコンサルタンツ

永原珠美

パシフィックコンサルタンツ株式会社

EELコラム



志賀先生
お子様のご誕生おめでとうございます！
(研究室一同)



5/24に妻が無事に男の子を出産しました。名前は理恩(りおん)といいます。生まれたときはあんなにほっそりしていたのに、3ヶ月経った今ではムニムニになって、これからどれだけ大きくなるんだろうという期待を募らせています。また、研究室の皆様とOBOGの皆様からありがたいお祝いも頂戴しました。特に、いただいた恐竜のフード付きタオルを纏うと、手足をバタバタさせてごきげんになるようで、大切に使用させていただきます。大きくなって新幹線に乗れるようになったら、子どもと一緒に長岡を訪問できればと考えていますので、よろしくお願いいたします！(志賀先生)

系長杯 (6/17)

6月中旬に系長杯が開催され、過去最多となる6研究室が参加しました。予選では地盤研と都市計画研に勝利して1位通過を達成。続く決勝戦では水圏防災研と激突し、最終回到3点差を追いつく驚異的な粘りを見せたものの惜敗となり、過去最高となる準優勝を収めました。白熱した試合展開を通じてチームの結束が一層強まっただけでなく、他研究室との親睦を深める絶好の機会となりました。(M2 中村)



Activities

旧山古志村踏査 (6/6)

6月6日、旧山古志村で現地調査を行いました。地すべりや土砂による川のせき止め、建物の被害など、当時の様々な被害の跡を巡り、先生の説明のおかげで技術的な面だけでなく歴史的な背景も含めて理解を深めました。水没した集落を伝える木籠の記念家屋や、3Dの映像展示が印象的だったおらたるを訪れ、休憩がてらアルパカ牧場にも立ち寄りしました。最後の和南津では、中越地震で壊れた新幹線の橋の柱が、今はしっかり補強されている様子を見ました。(M1 マルコ)



柏崎刈羽原発見学 (6/21)

柏崎刈羽原子力発電所の見学で一番驚いたのは、設備そのものよりも、そこで働く人に求められる水準でした。小さな怪我でも公表され厳しく見られていると聞き、他の産業とは緊張感がまるで違うと感じました。さらに、事故が起きれば身の危険を冒してでも対応にあたるという話には圧倒されました。中越沖地震で起きた問題を一つずつ潰してきた徹底ぶりも、こうした緊張感の上に成り立っているのだと思います。(M1 小林)



あとがき

研究室の活動を通して学ばせていただいています。これから始まる実務訓練も頑張っていきたいです。(B4 谷江)
 今までこの研究室にいてはとて楽しく、興味深いものです。(B4 モンセ)
 研究室の雰囲気にもだいぶ慣れました。来年の長岡花火は研究室で行きたいです。(B4 古瀬)
 研究室の居心地がいいです。これから多くのことを経験し学びたいです。(B4 山室)
 研究室にも慣れてきたので、これから多くのことを学んで頑張っていきたいです。(B4 永原)

長岡花火大会 (8/2)

8月2日、研究室やコンクリ研、都立大の学生たちと長岡花火を楽しみました。今年は陸上競技場前方の席から花火を正面で見ることができ、最高のロケーションで花火の迫力を存分に味わいました。食事をしながらさまざまな人と交流し、とても楽しい時間を過ごしました。私自身、研究室のみんなと長岡花火を見るのは今回で3回目でしたが、その大きさと迫力には毎年驚かされます。改めて長岡花火の魅力と素晴らしさを感じました。(M2 松橋)



能登半島地震調査 (5/9~5/10, 6/25~6/26)

5/9-10と6/25-26に2024年能登半島地震で液状化が発生した内灘町の地盤調査を行いました。5月の調査では、志賀先生と東京都立大学の志賀研究室の学生とともに、単点微動計測、簡易コーン貫入試験および砂置換法による現場密度試験を実施しました。無事に調査を終えて大学へ戻ったところ、「室内試験用の砂を持ち帰り忘れた!」と気づき、砂を採取するため、6月に再び内灘町へ向かいました。今後は調査結果をもとに研究を進めていきます。(M1 平林)



オープンキャンパス (7/26)

本年度も例年通り、振動台実験の実演と研究内容のポスター発表を実施いたしました。今回は、事前に地震研のHP等で情報収集を行った上でお越しくださる方が多く見受けられました。中には「こんな研究がしたい」と明確な希望を持つ意欲的な学生もあり、私たちも良い刺激を受けました。高校生の方が中心に参加され、私は旧カリということもあり「自分にも同じ時期があったな」と、少し懐かしさを覚える一日となりました。(M2 坂井)

